

により、読みの立場を示し、読みを深めるための話し合いに生かせるようにした。

② 「読みを磨き合わせる」段階

児童から出された三つの読みについてそれぞれの児童に根拠となっている言葉を明確にさせて理由を発表させ、話し合わせた。それぞれの読みの理由としては次のようなものが出された。

ア いきなり敵にぶつかり、なぐりつけた残雪の頭領としての勇気ある行動に感動したから。

イ 救わねばならぬ仲間の姿があるだけだったという残雪の様子を見て、今撃つことは残雪に対してひきょうだと感じたから。

ウ せっかくなつかまえたおとりのガンを残雪が助けようとしているから。

読みの理由についての話し合いを行った後、それぞれの読みに対する意見を出させた。

ウの「大造じいさんのおとりのガンを助けるため」という読みに対しては、おとりのガンにそれほどの価値を感じていないという意見が出されたが、アの「感動した」という読みに対しては、賛成する児童も多く、取り立てて反対する意見も出されなかった。そこで、「大造じいさんは残雪のどんな様子を見て撃つのを止めたのか」という発問をすることで、戦いを見て感動する以前に撃つのを止めていることをとらえさせようとした。

しかし、残雪の目に救わねばならぬ仲間の姿があるだけだったという叙述から、イの「今撃つことはひきょうだ」という考えが大勢に認められはしたものの、感動したためという考えを変えない児童が

見られた。

3. 検証授業【2】

(1) 題材名「大造じいさんとガン」(10/13)

(2) 本時のねらい

強く心をうたれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった大造じいさんの心情を理解することができる。

(3) 学習過程

単元	学習活動・内容	時間	○ 教師の支援 ● 評価	仮説との関連
自分 の 読 み を 持 つ	1 本時の課題をつかむ。 (1) 物語の読みの拠点を確認し、本時の学習理由をとらえる。 (2) 本時の課題を提案する。 読書の頼もしい態度に接した大造じいさんの気持ちを読み取ろう	7	○ 読みの拠点を「情景を思い浮かべながら、読書に対する気持ちの移り変わりを読み取ろう。」を確認し、大造じいさんが読書に抱く態度であることを確認する。 ○ 児童から課題の提案をさせ、話し合いの方向づけをする。 ● 学習課題をとらえることができたか。(観察)	
読 み を 深 め る	2 強く心をうたれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった、大造じいさんの気持ちについて話し合う。 (1) 一人読みでもった個々の読みを発表する。 (2) 児童の発表から、読みの違いをとらえる。 (3) 強く心をうたれた大造じいさんの気持ちについて話し合う。 (4) 読書のどんなところが、大造じいさんの心をうたれたのか、根拠とするところの違いをとらえ、話し合う。 ＜予想される児童のとらえた根拠＞ ア 救って来ておとりのガンを助けたところ イ ぐっと尻尾を持ち上げたところ ウ じいさんを殴みつけたところ エ 手をのばしてもじばたさわがなかったところ	28	○ 一人読みのノートに教師の助言を事前に着き込んでおき、多くの児童が発言できるように促す。 ○ 児童に伝えやすいように意見を整理して板書する。 ○ 児童の読みをまとめた板書の中に児童の氏名を書いた磁石をはり、誰がどの考えであるのか明確にする。 ○ 一人読みに基づいて、個々の読みの根拠を発表させる。 ● 根拠を聞いた内容を進んで発表しようとしているか。(発表) ○ それぞれの読みが大造じいさんの気持ちとして書かれたものではないのかとらえさせる。 ○ 大造じいさんの心をうたれた、根拠とする読書の行動の違いがあることをとらえさせる。 ○ 読書のどんなところが、大造じいさんの心を一番強くうたれたのか考えさせる。	○ 事前に座席表にまとめておいた児童の一人読みをした結果を基にして、多様な意見が出るように指名する。(I)(II) ○ 読みの違いがわかるように児童の読みをまとめて構造的に板書するようにする。(I)(II) ○ 座席表にまとめた結果から挙手しない児童についても、励まし発言を促す。(I)(II) ○ 氏名を書いた磁石をばっていただくことにより、各々の立場を明確にするとともに、話し合いに生かせるようにする。(I)(II) ○ 少数の児童の考えから根拠を読み取ることに発問させていく。(I)(II) ○ 読みの根拠を一人読みの際、ノートにまとめておく。(I)(II) ○ 読みの取りをまとめ、正しく読み取れることを確認する。(I)(II) ○ 他の読みに対する自分の考えを明確にさせる。(I)(II) ○ 根拠となった言葉がどれであるのかはっきりさせて考えを発表させる。(I)(II)
読 み を 見 つ め 直 す	4 本時の学習のまとめをする。 (1) 強く心をうたれた大造じいさんの気持ちについて読み深まったことをノートにまとめる。 (2) 大造じいさんの気持ちや根拠を思い浮かべながら朗読する。	10	○ 本時の学習により、読み深まった気持ちをノートにまとめさせ、自分の読みの実感をとらえさせる。 ● 話し合いにより深められた読みをノートにまとめることができたか。(ノート) ○ 読み深めた内容が表れるように工夫しながら朗読できるようにする。 ○ 学習カードにより、本時の学習を振り返り、自己評価する。	

(4) 指導の結果

① 「読みの違いを明確にする」段階

本時の課題「残雪の頭領らしい態度に接した大造じいさんの気持ちを読みとろう」に対しては、大きな読みの違いはみられなかった。そして、根拠とする箇所の違いから読みの多少の違いはあるものの、残雪の行動に大造じいさんはますます感動を深めていくとまとめられるであろうと考えた。実際に子ども達から出されてきた読みは主に次のようなものであった。